

全社員が、当たり前 にデータ活用する姿を目指して

2024年2月6日

パナソニック インフォメーションシステムズ（株）
データ&アナリティクスソリューション本部



1. パナソニックグループの目指す「変革」とは？
2. グループ共通のデータ利活用基盤構築の道のりとは？
 - これまで直面してきた課題
 - グループ共通基盤の考え方と仕組み
 - 活用事例と利用者の声



1. パナソニックグループの 目指す「変革」とは？

1.お客様サービスのDX

デジタル技術を活用して
「暮らし」と「しごと」にお役立ちをご提供

幸せの、チカラに。

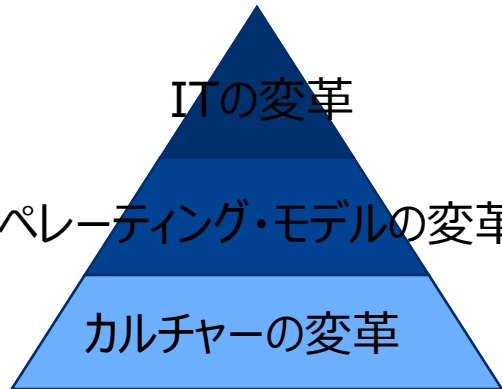


2.事業オペレーションのDX

ITの変革

オペレーティング・モデルの変革

カルチャーの変革







7つの原則

- 1) グループの重要な経営資源であるデータを、ステークホルダーの「幸せの、チカラに。」つなぐ
- 2) 経営者がデータの利活用と業務プロセスに責任を持つ
- 3) 「お客様を誰よりも理解する会社」になるために、顧客接点の多様性を活かし、データを徹底利活用する
- 4) 業務プロセスを絶えず進化させ競争力の源泉とする
- 5) システム化の前に、現場の業務プロセスの現状を把握し、標準化の範囲を明確にする
- 6) 標準化の定義を明確にし、経営者がコミットする
- 7) 現場も含めたグループ内で、データ・テクノロジーを利活用できる人材を増やし支援する

PX：データドリブン経営の実現へ

カルチャーの変革



Data Culture

業務や経営意思決定のプロセスにおいて
データを重視するマインドや行動が根付いている状態

カルチャーと
人材

データ活用への経営層の直接関与

未来を予測するデータ活用へステージを変える

オペレーティング・モデルの変革



Data Literacy

ツールを利用してデータの可視化や分析を行える
基本スキル・知識を誰もが有する状態

組織間連携

共通の活用スキームやプラットフォームの重要性

データ活用・分析における目的の明確化

ITの変革



Data Management & Infrastructure

常に必要最大限のデータが蓄積され、利用者にそれらの所在・
意義が公開され、スピーディにデータの取り出しが可能な状態

データ
マネジメント

プロセスの標準化とMDMの重要性

SSOT (Single Source of Truth)

データオーナー・データスチュワードの定義

組織間連携

共通の活用スキーム・プラットフォームの重要性

ビジネス × IT

パナソニックグループのIT中核企業として、ビジネスの課題や要件を理解した上で、IT構築の全工程とその運用を担う

カバー領域

幅広い事業領域



様々な業務部門

マーケティング	設計調達	製造
販売物流	事業戦略	R&D/商品企画
設計・開発	製造・SCM	CS
経理	人事	総務
経営管理		

グローバル



経営官理<データドリブン経営>



IT化工程

経営課題

ビジネス
課題・要件

IT
戦略・企画

IT
要件定義

開発

運用

パナソニックISデータ&アナリティクス
ソリューションのワンストップ提供

ビジネス
アナリシス
(課題解決支援)

データ
アナリシス
(ソリューション開発)

データ
エンジニアリング
(基盤構築)

PX

Panasonic
Transformation

事業現場

データドリブン
経営の加速



事業現場



データ活用が
ますます「自分ごと」化

PX
Panasonic
Transformation

パナソニックIS



事業現場からの
支援依頼が急増

意識面・取り組み面ともに
現場主導での変革が加速

業務プロセス標準化

データ定義
(SSOT)

デジタル人材育成

現場の変革に先んじて、
さらなる専鋭化へ

従来のデータ活用

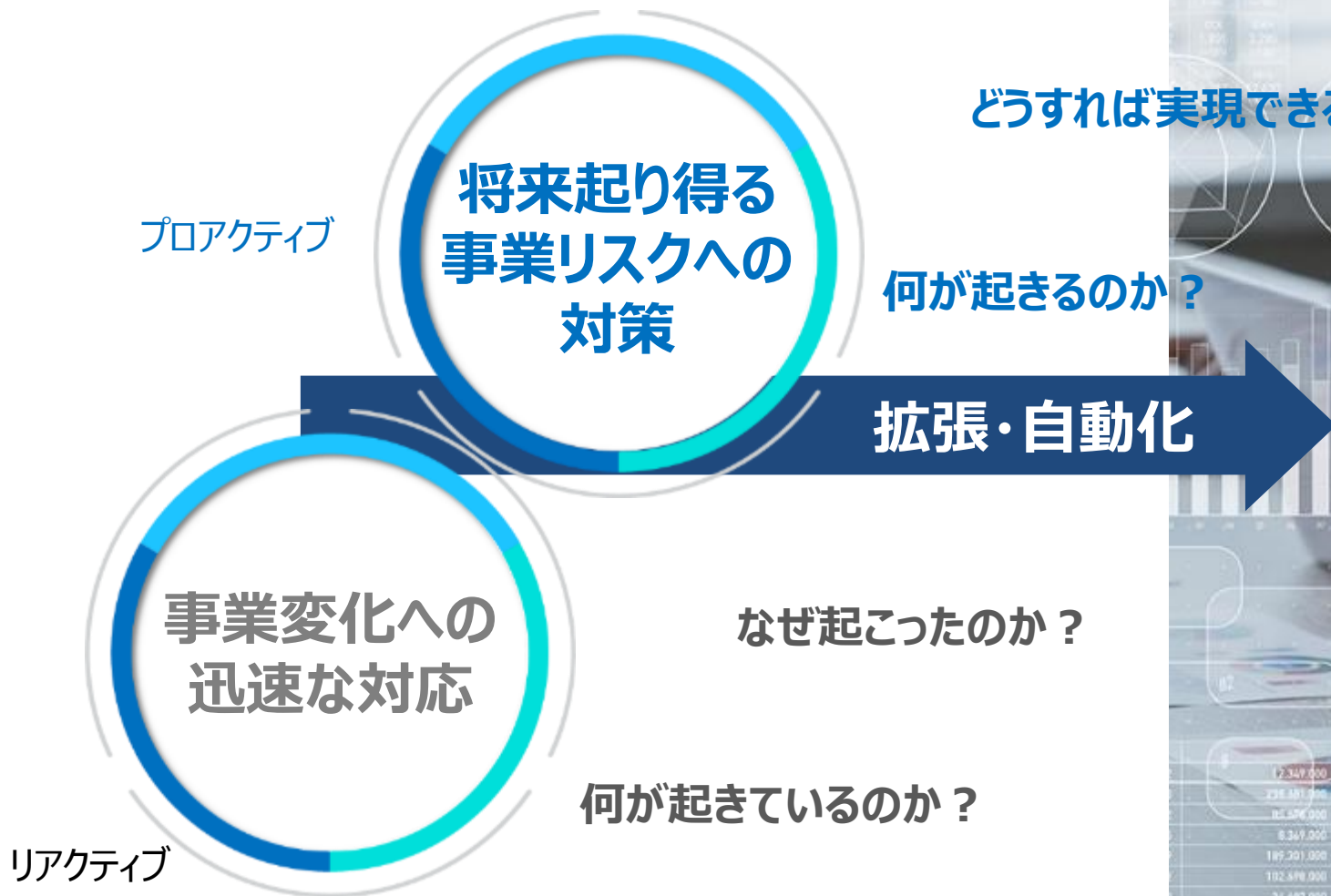


- ✓ 専門家による分析
- ✓ 限定的なデータ活用

あるべきデータ活用



- ✓ 現場による分析（「事業理解」に基づく「データ分析」）
- ✓ 常時データを活用（「分析」と「意思決定」の一体化）



経営・マネジメント・現場の各層における
意思決定の迅速化

意思決定

データ
分析

ヒト&モノ（プラットフォーム）をワンストップで支援

ビジネスアナリシス
&データ分析

現場の課題解決・成果創出を支援



アナリティクス
プラットフォーム

現場のデータ利活用環境を拡充

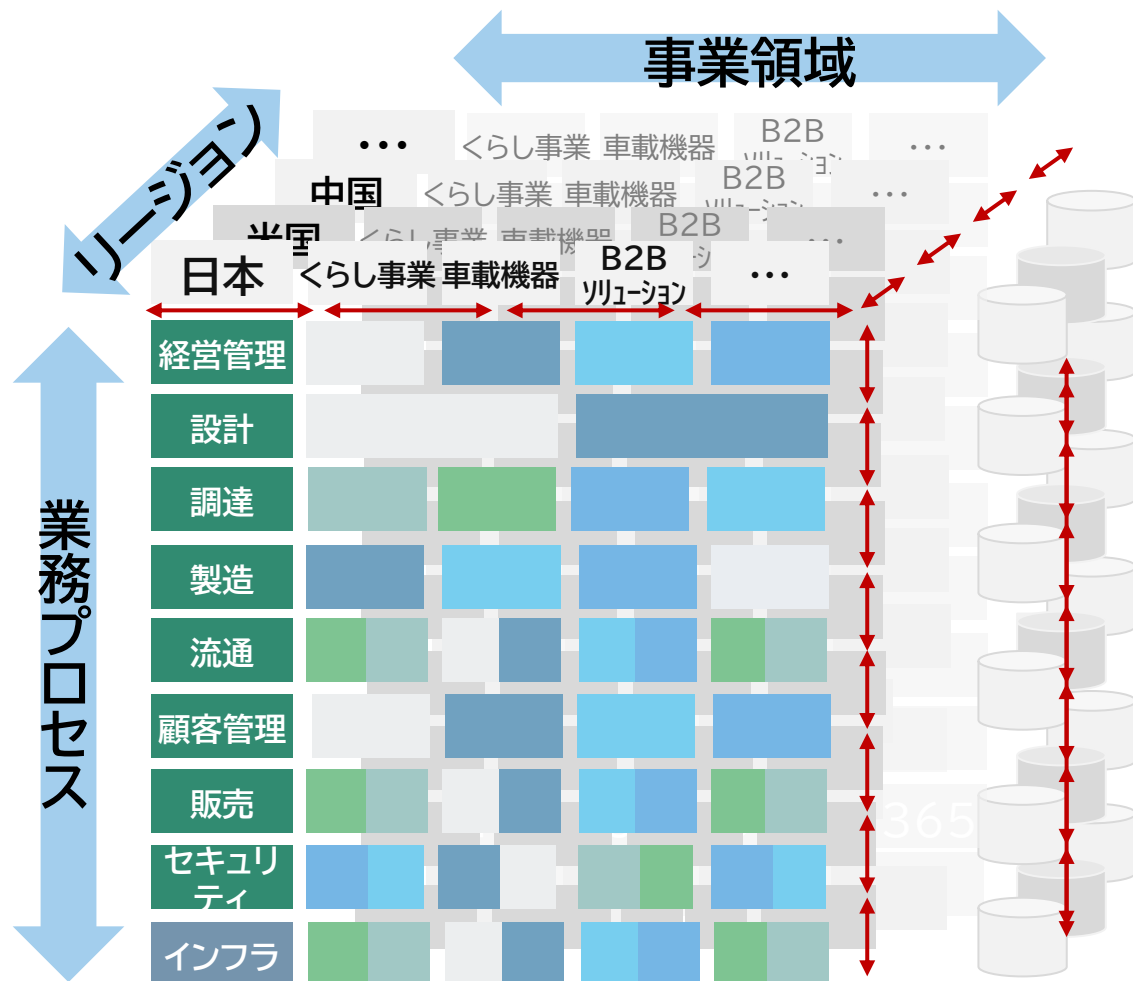


「現場ドリブン」

～事業現場に徹底的に寄り添い、伴走する～

2. グループ共通のデータ利活用基盤 構築の道のりとは？

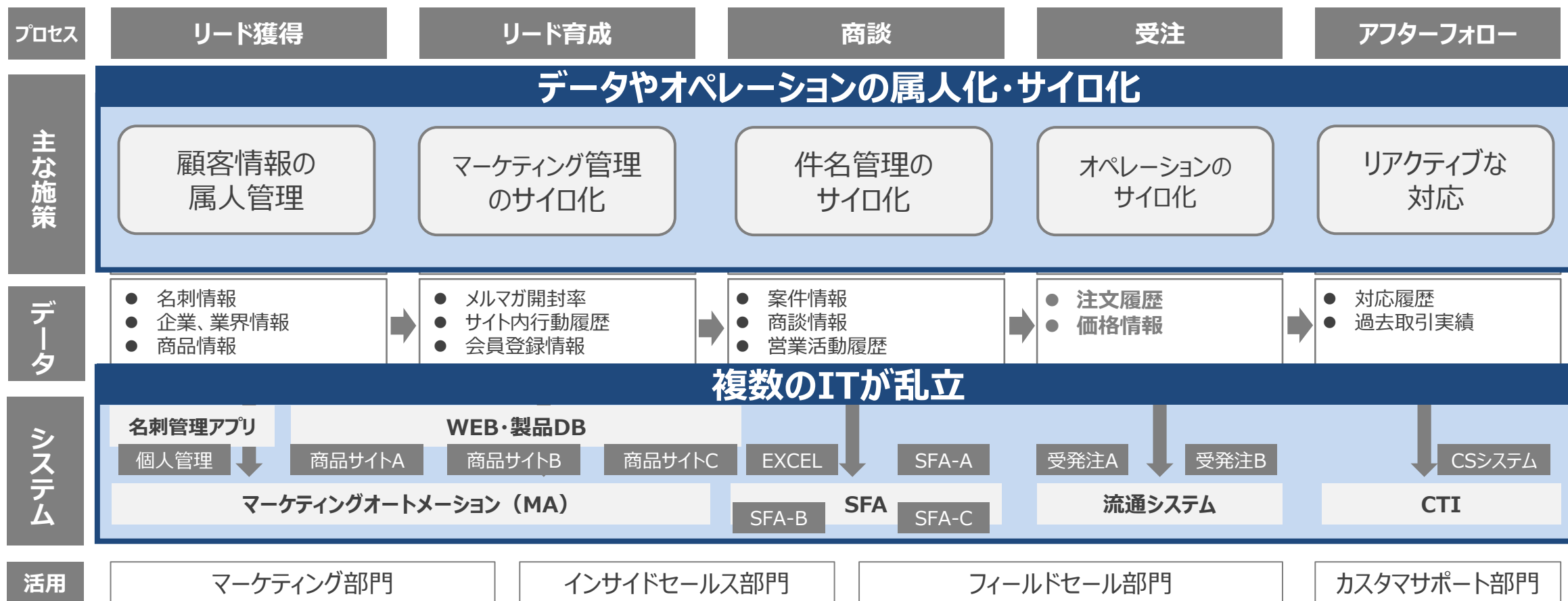
グループ全体のITは複雑化しがち・・・



多事業の集合体

「事業×リージョン×業務」の
マトリックス経営

ITの乱立と同時に、属人化・サイロ化が進みがち・・・



現場ドリブン

ビジネス現場に徹底的に寄り添い、伴走

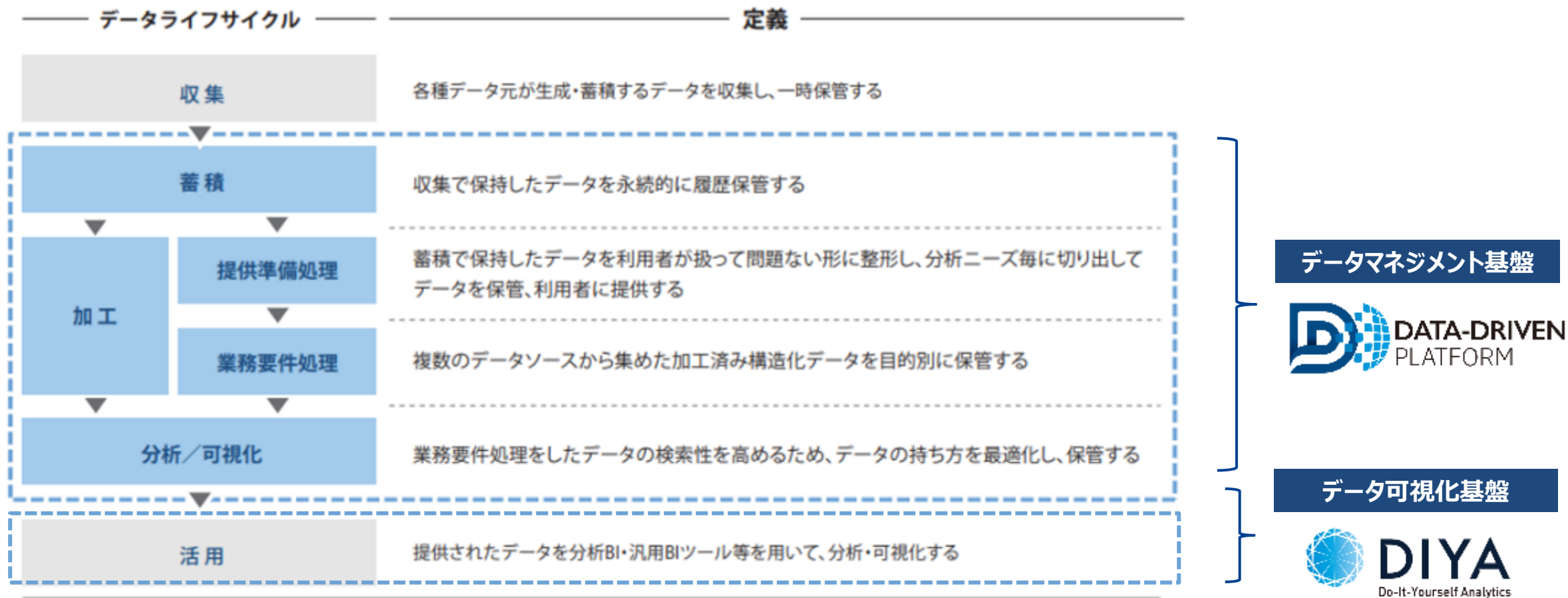


アジャイル

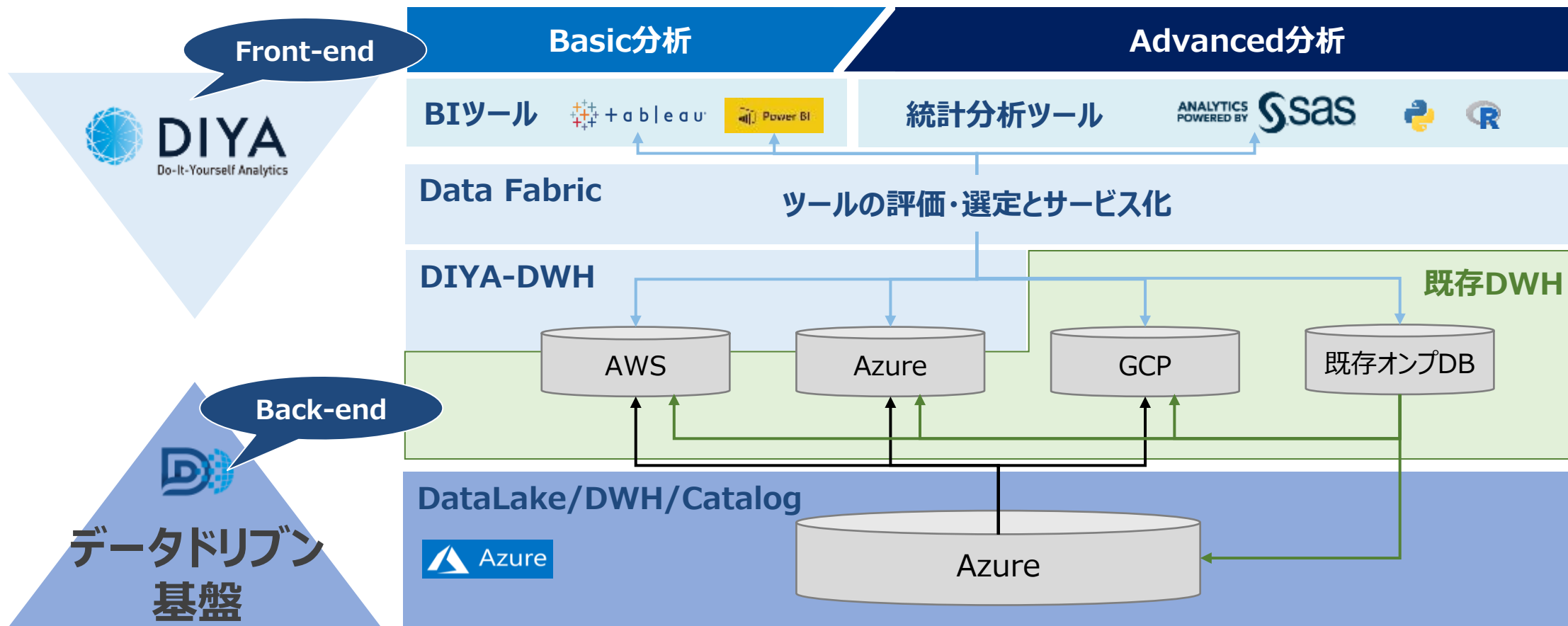
環境変化への素早い対応



共通基盤をクラウドベースで構築して提供し、事業現場でのデータドリブン経営を支援



Back-endとFront-endのグループ共通基盤を活用し、既存DWH資産を活かしつつ
事業会社のデータ基盤を最適統合化



セルフ型とオーダー型を使い分けながら、グループ内にデータ活用基盤をあまねく展開中

組織	CoE支援	データ活用基盤													2023.10時点
		セルフサービス型 DIYA (Tableau/Power BI/SAS)						オーダー型 PX-データドリブン基盤							
事業会社	デリバリーサポート	利用ID 20,454	営業	開発	調製造 達造	人事	経営		営業	開発	調製造 達造	人事	経営		
	支援中		○				○				○		○		
				○	○	○	○								
					○	○	○								
					○	○	○								
					○	○	○								
	支援中					○	○						○		
						○	○								
						○	○								
						○	○								
	支援中		○	○	○	○	○				○	○	○		

低価格
スピード
重視

高価格
品質重視

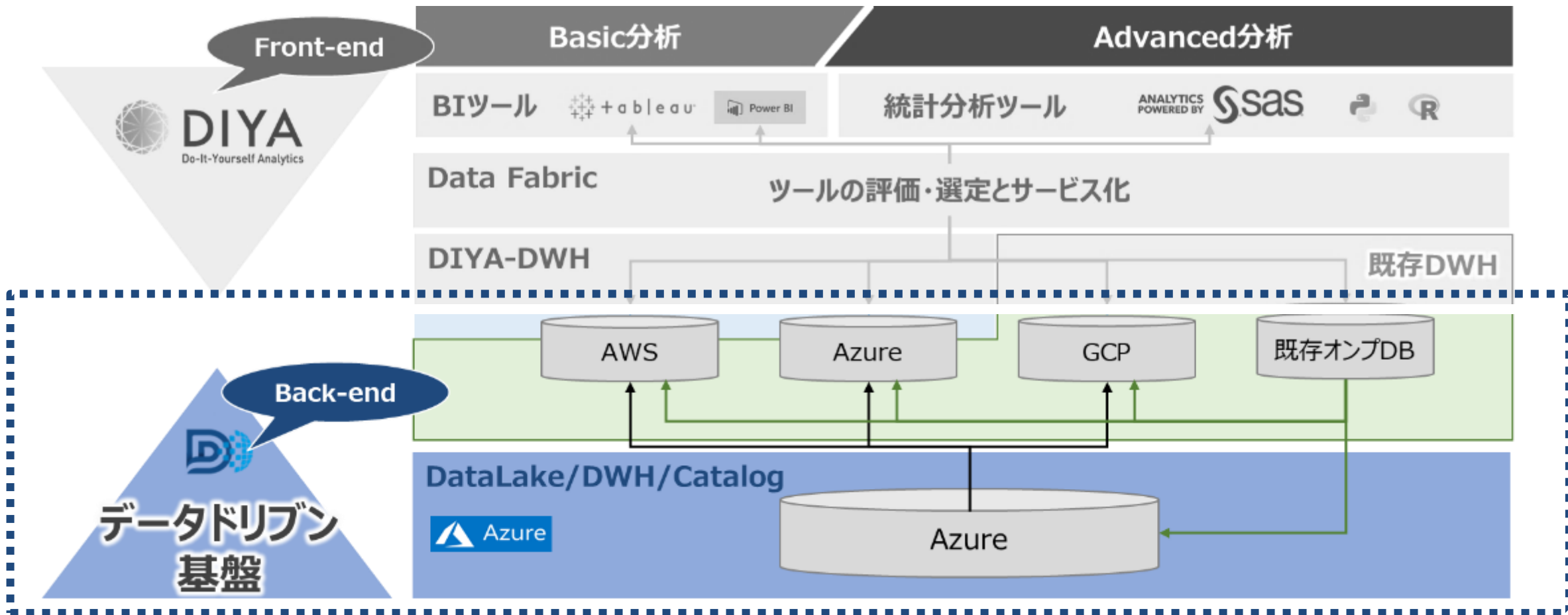
論理統合

専門家のサポート

高い自由度

専門家におまかせ

標準化 SSOT



様々な源泉アプリのデータを一元管理し、高品質・高鮮度なデータを各事業現場に提供

グループの取り組み

PX : データドリブン経営の推進 (データに基づく経営・業務の意思決定および高度化)

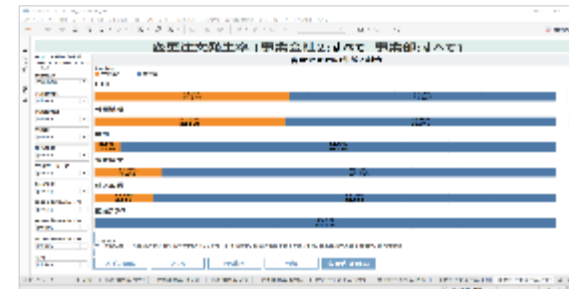
様々な切り口のデータを分析



経営の見える化



業務の高度化



高品質・高鮮度なデータ提供

データドリブン基盤

源泉アプリ

ERP

SaaSアプリ

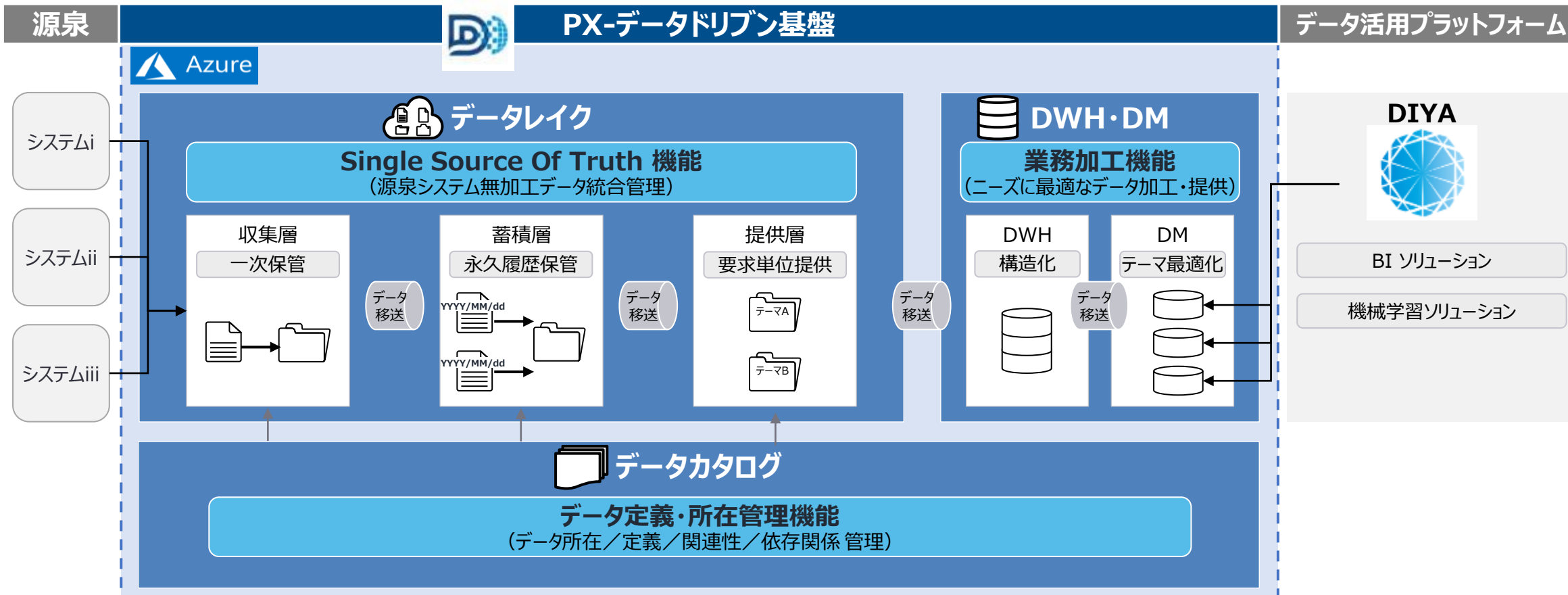
機器・センサー

その他アプリ

取り組みの土台



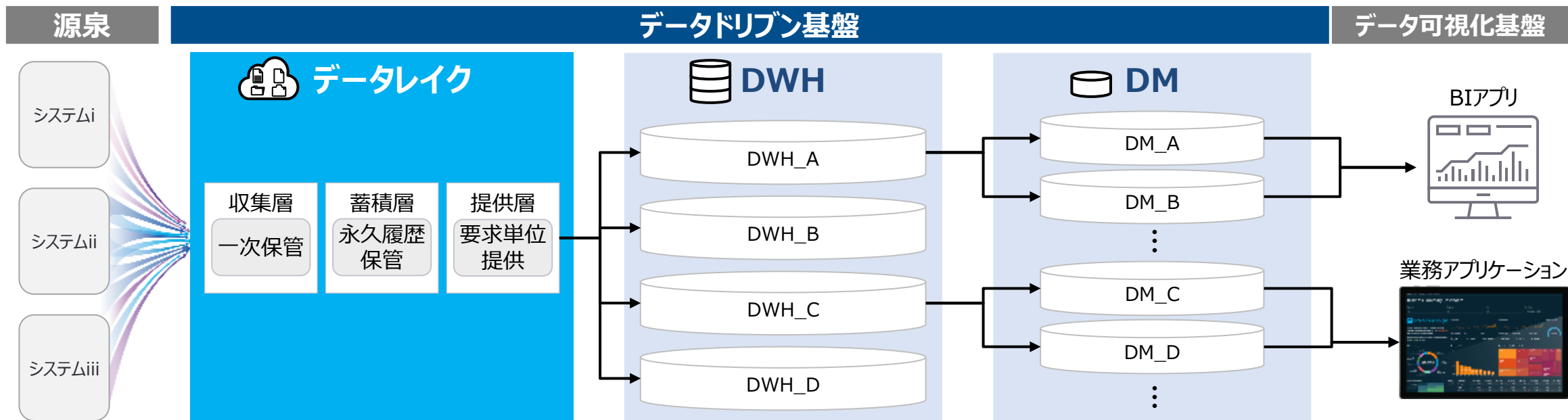
提供価値： ① データレイク ② DWH・DM ③ データカタログ



- ✓ SSOTの原則のもと、
「唯一正しいデータ」を一つの基盤に集約

SSOT とは？

→「Single Source of Truth（信頼できる唯一の情報源）」の略称。信頼できるただ1つのソースを確立することで、情報の一貫性と正確性を確保し、組織内の全員が同じデータに基づいてビジネスの意思決定を行うことを保証するために使用される概念。



源泉無加工データの統合管理

保管可能なデータ形式の柔軟性や保管コスト低減効果を評価し、源泉アプリの様々なRAWデータを集約

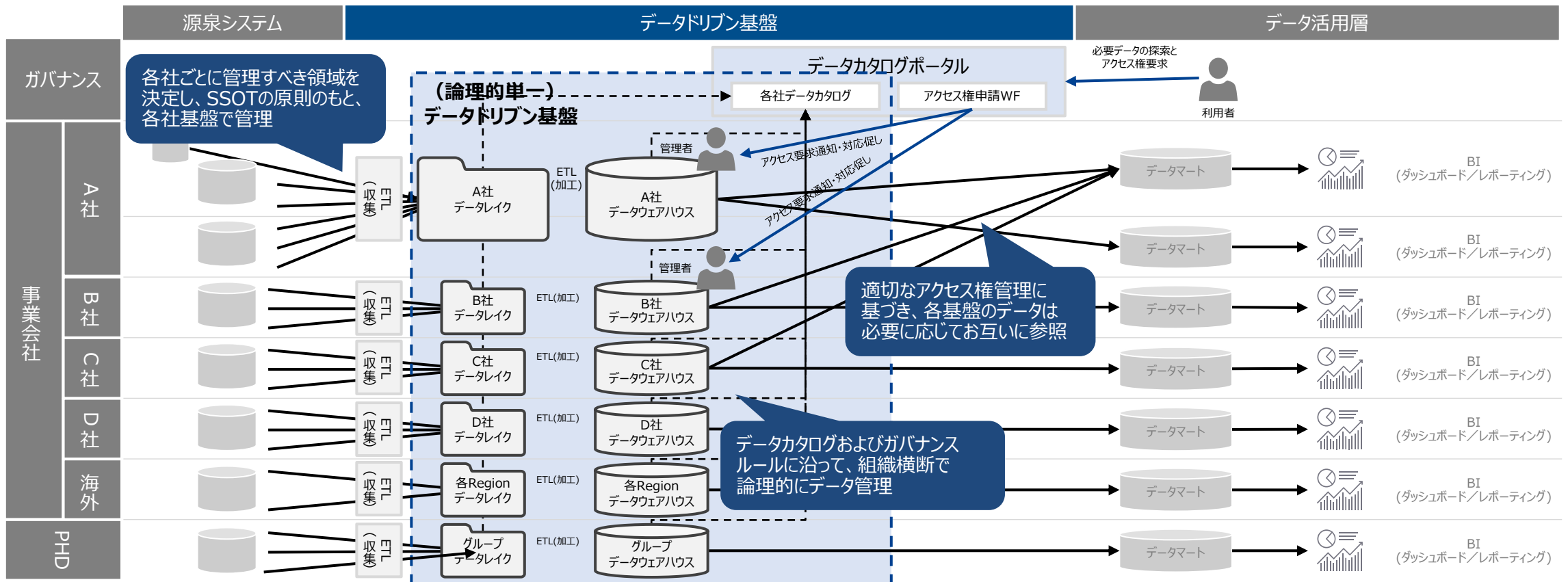
全社横断管理データの保管

事業分社・統合化により分散した各領域のデータを統合し、全社のデータ品質を向上

データ利活用アプリへのデータ最適化

データの利活用要件に最適な形にデータを加工・保管

- ✓ IT部門側の都合で、無理に一つの環境に統合はしない
- ✓ データカタログで、基盤とデータを論理的に統合
- ✓ データのガバナンスを効かせる体制・プロセスを検討

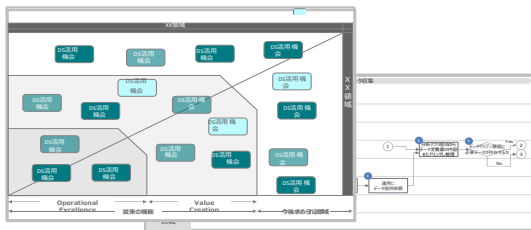


- ✓ データ戦略策定から基盤の構築・導入、活用定着まで、ワンストップで現場に伴走

アジャイル・循環型でスパイラルアップ

データ戦略策定・ 業務再設計

- ビジネスニーズや事例を基にデータ利活用ケースを整理
- データ蓄積のロードマップ策定
- データドリブンな標準業務化のデザイン



データ統合・活用

(データ収集／加工／分析・可視化)

□ データドリブン基盤の導入

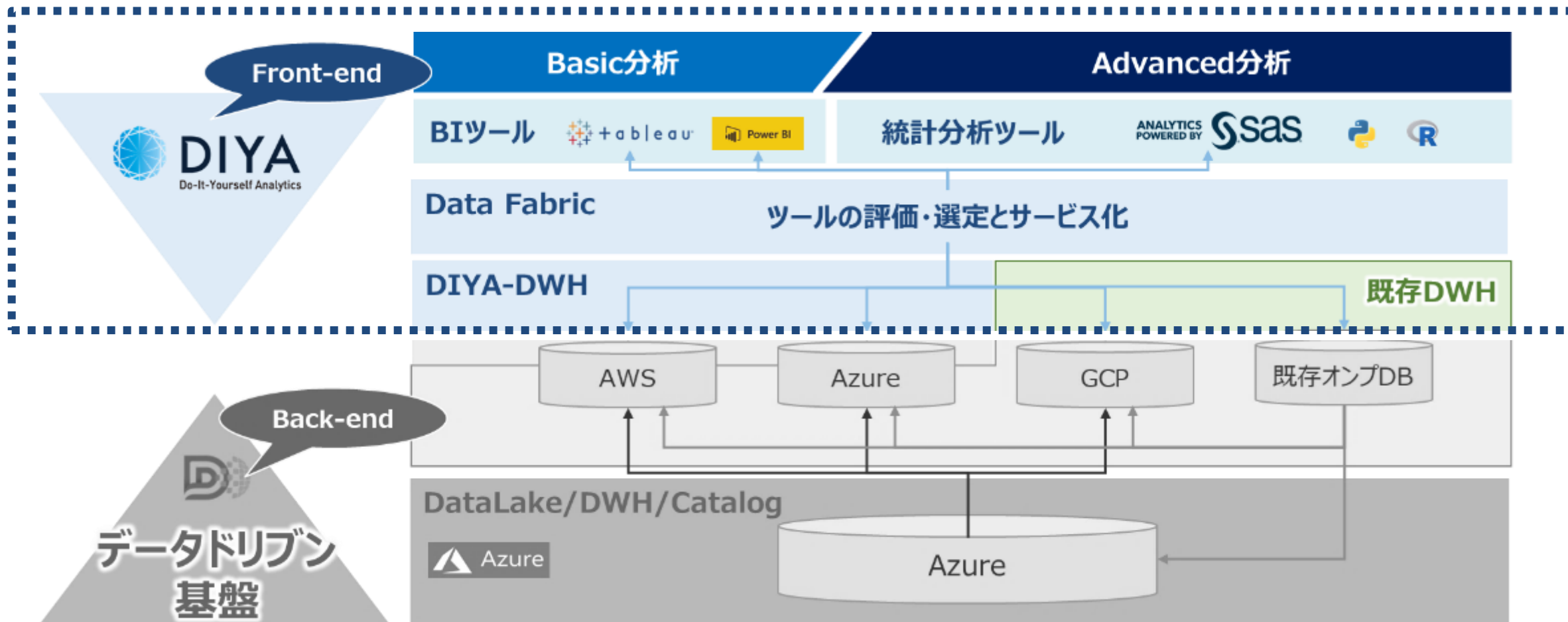
- データレイク・DWH・DM・データカタログなど
- データドリブン基盤の設計・構築方法
- データ、アーキテクチャ・モデリング設計
(パフォーマンスの高くBIツールを活用するためのデータ設計設計)

□ データ活用のフロントエンドシステムとの連携

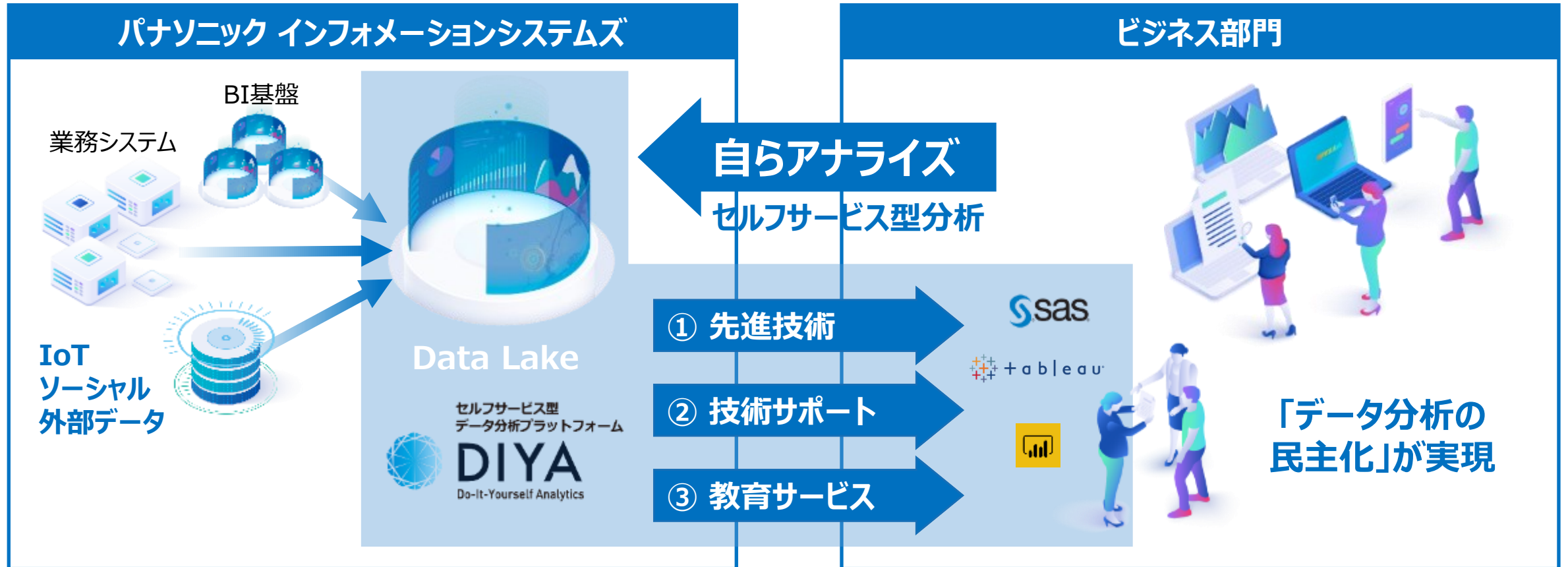


業務試行・定着化 および評価・改善検討

- 業務試行・定着化に向けた評価、および改善点の洗い出し



ユーザー自身でのデータ加工・探索・可視化を可能にする環境やノウハウを提供





➤ 提供価値： ① テクノロジー ② データ ③ ナレッジ&サポート




各事業の現場で
データドリブン経営
の加速へ



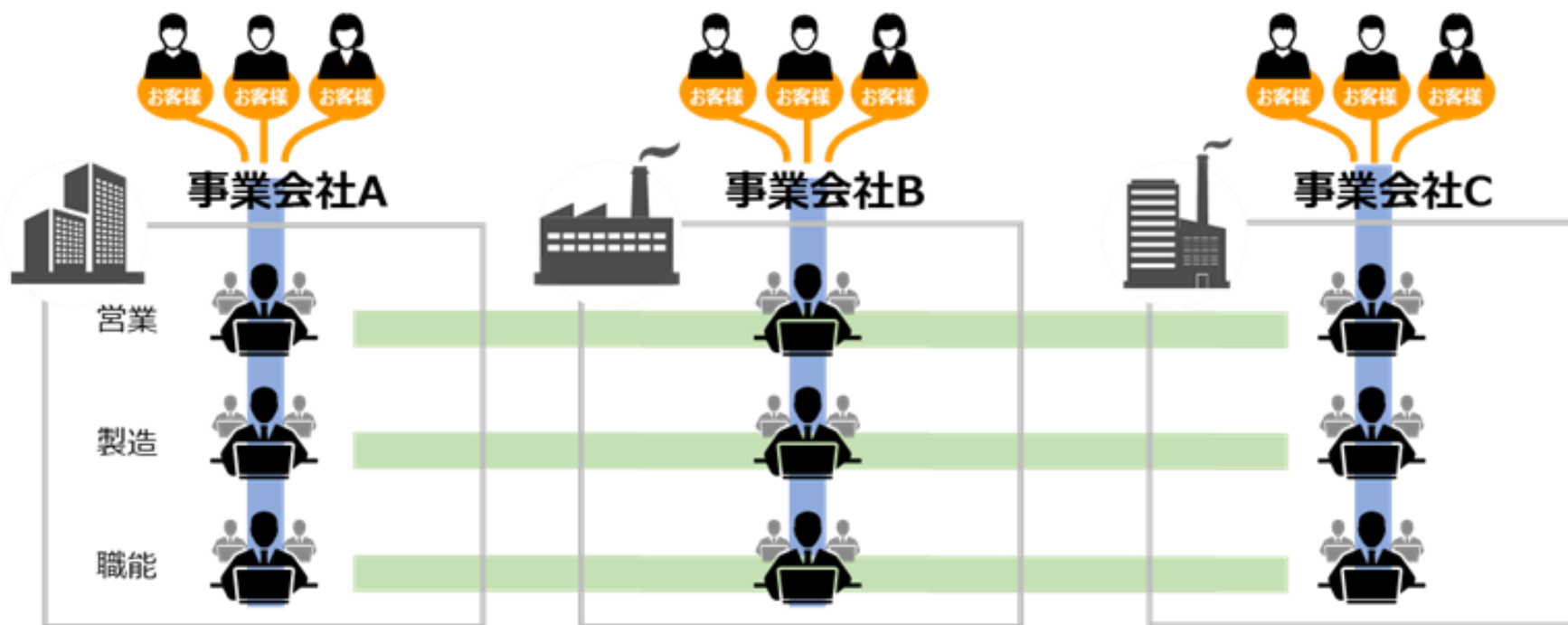
③ データサイエンティスト
によるサポート

- 分析技術サポート
- 分析テンプレート
- 教育サービス

- ✓ 導入前のユーザーに対しては説明会を定期的を開催。導入後は様々なスキルアップメニューを提供
- ✓ 「困ったら、誰かに助けてもらえる安心感」を醸成

	導入前		導入後			
分類	サービス説明会 (無償)	初期導入 ハンズオン (初期導入費用に 含む)	サポート		テクニカルサポート (有償)	コミュニティ (無償) ・Tableau ・Power BI 
詳細	セルフ型データ分析 プラットフォームサービスの 紹介	ツール (Tableau、 SAS) の操作方法の 説明会 ※Power BI は対象外	<ul style="list-style-type: none"> ・ユーザ部門のニーズに 合わせた個別の分析 トレーニングやWS ・分析手法 (統計、 機械学習) の研修 	外部主催の 分析トレーニング	以下のような技術支援 <ul style="list-style-type: none"> ・データ収集/加工 ・モデルやダッシュボード 作成 	ユーザー同士の事 例・課題共有会、 サービスのアップデート 案内など
開催 頻度	1時間/ 月2回	2~3時間/ 導入時	半日程度/ 随時	1~3日/ 開催時	要件に応じて/ 随時	3~5日/ 四半期
ビジネスアナリシスマるごと支援 (有償)						

- ✓ 事例やノウハウの横展開を通じて、組織を跨いだ「横の繋がり」という新たな価値を創出。



グループの職能をつなぐ
(事例の横展開)

- ✓ コミュニティを立ち上げ、Tips・QA・最新情報を互いに共有。オンラインイベントも定期的を開催

コミュニティビジョン

『データのかで新しいビジネス・ワークスタイルを創る！』

“Create new business & workstyle with Data Force”

参加メリット

- ◆ 製品・サービスに関する疑問・課題の解消
- ◆ 活用方法などのグループ内情報共有による新たな発見
- ◆ メンバー交流や勉強会による参加者のスキル・リテラシー向上
- ◆ パナソニックグループ内のネットワーク形成によるシナジー発揮
- ◆ ベンダー企業や他社との直接交流で最新情報の収集や改善円滑化



- ✓ ユーザー主体の事例説明会やトレーニングイベントを定期的を開催

DIYAトレーニングコンテンツをやってみよう！



開催日時

- ◆ 2024年 1月 25日 (木) 16:00～17:00
- ◆ 2024年 1月 30日 (火) 15:00～16:00

会場

Teams会議
(参加お申込み頂いた方に招待を送付させていただきます)

内容

- ① セルフサービス型データ分析プラットフォームDIYAの説明
- ② DIYAの分析トレーニングコンテンツのご紹介 + 分析ツール(Tableau・SAS)のデモ
- ③ 質疑応答(全体)

対象者

パナソニックグループ社員 全員

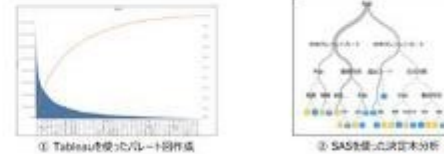
★ 事例ご紹介

DIYA データ分析トレーニングコンテンツ紹介

- データ活用人材に必要なスキルと、分析トレーニングコンテンツのご紹介



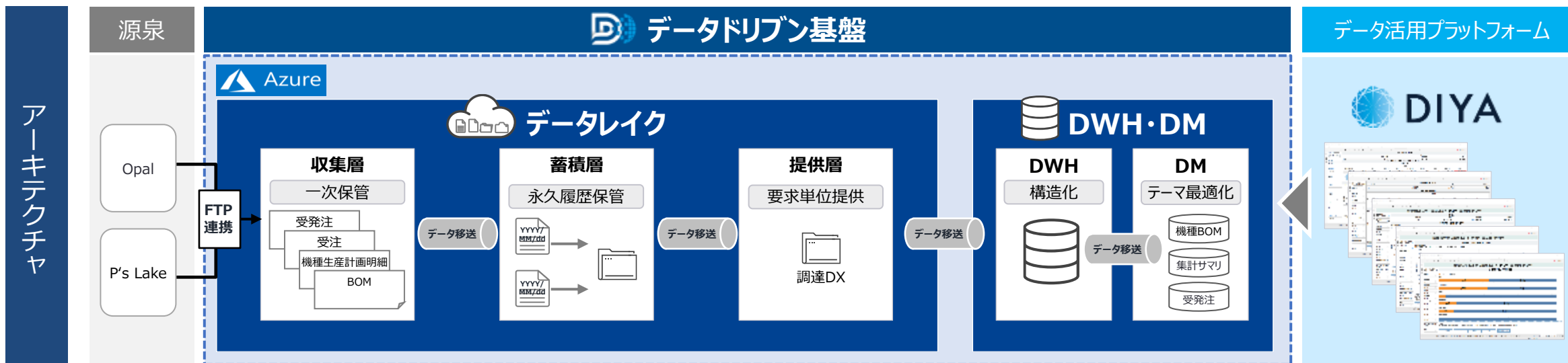
- 分析ツールを用いたデモンストラーション



DIYAサービスでは様々な分析トレーニングコンテンツを用意しております。今回はこれらのコンテンツの紹介と、コンテンツを通じて身につけた分析スキルが身につく実践のツールを用いた紹介させていただきます！

- ✓ ユーザーへのアンケートやヒアリングを定期的を実施
- ✓ 変化の激しい時代のニーズに合わせて、ソリューションメニューを都度拡充





提供価値

スピーディなデータ取得

- 3ヶ月で、基盤の構築～計29情報種のデータ提供を実現。直近では、20情報種の提供追加を1ヶ月で対応予定。データ取得およびDWHの構築が、以前に比べてスピーディで容易に。
- データ取得の調整窓口が一本化されたことで、データ取得に関する源泉との煩わしい調整労力が圧縮。

データ統合への意識醸成

- データドリブン基盤によるスピーディなデータ提供の利点や、データ集約・統合によるデータ精度・整合性の向上、データ管理コスト最小化等のメリットを実感いただいたことにより、データドリブン基盤のグループ活用意識を醸成。

最新データをスピーディに取得・
可視化できるようになった！

大規模なデータ管理基盤の
構築・運用コストを削減できた！

データの出自・意味・内容も
簡単に追跡できる！

グループで活用することで、
データドリブン経営をさらに
加速していけそうだ！



パナソニック インフォメーションシステムズ について

ONE Panasonic IT

私たちの使命

デジタルと人の力で
「くらし」と「しごと」を幸せにする。



MISSION

お客さま、お取引先さま、従業員に、
ITによる本質的な価値を提供、経営に直接貢献。

ITを創る
喜びを

お客さまの



便利と嬉しいへ

お取引先さまとの



シナジーへ

従業員の



キャリア形成と
成長へ

VISION

私たちはビジネスに寄り添う、Co-Creatorです。

お客さまの「くらし」と「しごと」を共に考え、共に創ります。

私たちはInnovatorです。

新しい技術、働き方で、スピーディに、想像の先を実現します。

私たちはOne Panasonic ITです。

認め合い、学び合い、高め合って、皆で成長し続けます。

VALUE

想像、その先を創造

お客さまの夢を
かなえるために
ITの匠集団として、
想像の先を創造する

多様性、信頼、成長

多様性を認め合い、
時にぶつかり、高め合う

速く、広く、深く、つなぐ

つなぐ価値を最大化
ビジネスとIT、人や組織、
人のこころをつなぐ

データが語る、語らせる

答えのヒントは
データにある。
データに語らせる

衆知・自律化集団

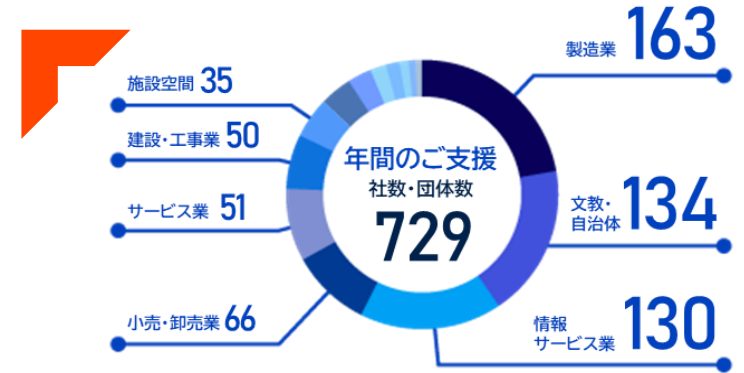
全員参加で衆知を集め、
変革を常態化

主役は、「わたし」

変革の主役は「わたし」

一般市場向けビジネス

パナソニックグループでの挑戦を通じ、B2B市場へ価値を提供



※1年間のご支援企業数（パナソニックグループを除く）



パナソニックグループのIT戦略をグローバルで支援

パナソニックグループのグローバルにおけるビジネスと経営をITで支え、Panasonic Transformation(PX)を推進しています。

データ統合・活用

クラウド連携
システム統合
企業間取引
データ戦略

働き方改革

テレワーク
RPA
勤務管理
クラウドストレージ

施設空間

チケットイング
POS
会員管理
データ分析

基幹業務

製造業務
販売業務
CRM
文書管理

製造現場支援

製造IoT
映像監視
フィールド業務支援
業務モバイルアプリ

文教・自治体

PC教室管理
BYOD
教員用端末
教務支援



≡ 会社概要

会社名	パナソニックインフォメーションシステムズ株式会社
本社所在地	大阪 〒530-0013 大阪府大阪市北区茶屋町19番19号 TEL : 06-6906-2801 (代表) 東京 〒104-0061 東京都中央区銀座8丁目21番1号 TEL : 03-5148-5634 (代表)
設立年月日	1999年2月22日
事業内容	情報サービス
資本金	1,040百万円
主要取引銀行	三井住友銀行 大阪本店営業部 三井住友信託銀行 大阪本店営業部
許認可など	特定建設業 電気通信工事業 (特-3) 第157588号 一般建設業電気工事業 (般-3) 第157588号 届出電気通信業者 E-63-00084
関係会社	親会社 パナソニックホールディングス株式会社 連結子会社 パナソニック ネットソリューションズ株式会社 松下情報系統(上海)有限公司

国内 35 拠点、海外 9 拠点



データ活用についてもっと詳しく知りたい方へ

お気軽にお問い合わせください

お問い合わせ

